

令和4年度

飛鳥資料館ミニ展示「飛鳥資料館に寄贈された瓦」

飛鳥資料館では、令和3年度から資料館所蔵の資料をもっと知っていただきたため、春期にミニ展示をおこなっています。今回は、寄贈された瓦を中心に展示をおこないます。奈良県内の寺院から出土した瓦のほか、千葉県龍角寺の瓦等、遠隔地の資料も含まれます。飛鳥地域の瓦と似ているもの、そうでないもの、見比べると新たな発見があるかもしれません。ぜひ足をお運びください。

また、夏期企画展の写真コンテストの応募作品も募集しています。高松塚古墳壁画発見50周年にあたる令和4年のテーマは「高松塚古墳」です。高松塚古墳に関わるとつておきの写真、お待ちしております。詳細はホームページをご覧ください。

(飛鳥資料館 石田由紀子)



会期：2022年4月22日（金）～5月22日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜休館（5月2日は臨時開館）

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎ 0744-54-3561

平城宮跡資料館令和4年度春期特別展

平城宮跡史跡指定100周年記念・奈良文化財研究所70周年記念 「未来につなぐ平城宮跡—保存運動のあけぼの—」

令和4年は平城宮跡が「史跡」に指定されてから100年という節目の年にあたります。

平城宮は都が京都に遷って以降、長らく田畠になっていました。明治時代、その平城宮跡の保存運動を進めた人物としては、奈良の植木職であった棚田嘉十郎がよく知られていますが、保存運動の口火を切ったのは、地元である当時の都跡村の有志たちによる運動でした。

保存運動は、明治34年（1901）4月3日、第二次大極殿の基壇上に標木を建設したことにはじまります。近年、既に失われたと考えられていた当時の標木の一部と関係史資料が地元の旧家で発見されました。本展示では、この標木とその建設前後の史資料を通して、平城宮跡が遺跡として注目され、史跡指定を経て、みなさんが現在目にする姿にいたるまでの保護や整備の流れを紹介いたします。保存運動に尽力した地元住民たちや棚田嘉十郎、整備事業に従事した調査員たちの平城宮跡に対する熱い想いを感じていただけますと幸いです。（企画調整部 藤田友香里）



会期：2022年4月29日（金・祝）～6月12日（日）

開館時間：9：00～16：30（入館は16：00まで）／休館日：月曜休館（5月2日は臨時開館）

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/> お問合せ：☎ 0742-30-6753（連携推進課）

■ 記録

文化財担当者研修

○報告書編集基礎課程

12月13日（月）～12月17日（金） 10名

○報告書デジタル作成課程

12月20日（月）～12月24日（金） 10名

○史跡等保存活用計画策定課程

1月18日（火）～1月24日（月） 9名

○文化財三次元計測課程

1月27日（木）～1月28日（金） 10名

飛鳥資料館 秋期特別展

10月15日（金）～12月19日（日） 7,353名

「屋根を彩る草花—飛鳥の軒瓦とその文様」

飛鳥資料館 冬期企画展

1月21日（金）～3月13日（日） 2,128名

（3.10現在）

平城宮跡資料館 冬期企画展

2月11日（金）～3月27日（日） 2,971名

「発掘された平城2020・2021」 （3.10現在）

第25回古代官衙・集落研究集会

12月17日（金）・18日（土）会場参加 83名

オンライン参加 42名

「古代集落の構造と変遷2」（古代集落を考える2）

第21回古代瓦研究会シンポジウム

2月5日（土）・6日（日） 会場・オンライン参加 174名

「鳴尾・鬼瓦の展開II—鬼瓦—」

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>

Eメール koho_nabunken@nich.go.jp

発行年月 2022年3月